

平成 30 年 12 月 3 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 30 年 12 月 3 日 (月曜日)

午前 9 時 00 分から午前 11 時 00 分まで

2 場 所 教育委員会会議室

3 出席者

教育長 高橋 譲 委 員 鷲尾 達雄 委 員 羽賀 友信
委 員 青柳 由美子 委 員 大久保 真紀

4 職務のため出席した者

教育部長	金澤 俊道	子ども未来部長	波多 文子
教育総務課長	曾根 徹	教育施設課長	遠藤 雄一
学務課長	佐藤 正高	学校教育課長	小池 隆宏
子ども家庭課長	大矢 芳彦	保育課長	田辺 亮
青少年育成課長	斎藤 裕子	中央図書館長	山田 あゆみ
科学博物館長	小熊 博史	スポーツ振興課長	竹内 正浩
学校教育課主幹兼管理指導主事	神林 俊之	学校教育課主幹兼管理指導主事	丸山 巧

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐	安達 紀子	教育総務課庶務係長	佐藤 裕
教育総務課庶務係	高橋 奏		

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 44 号	平成 31 年度当初予算の要求について

7 会議の経過

(高橋教育長) これより教育委員会 12 月定例会を開会する。

◇日程第 1 会議録署名委員について

(高橋教育長) 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、長岡市教育委員会会議規則第 19 条第 2 項の規定により、羽賀委員及び青柳委員を指名する。

◇日程第 2 議案第 44 号 平成 31 年度当初予算の要求について

(高橋教育長) 日程第 2 議案第 44 号 平成 31 年度当初予算の要求について を議題とする。これについては公表前であるので、非公開が適当ではないかと思うが、他の委員の方々はいかがか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(高橋教育長) では、非公開とする。

————— 会議規則第 20 条第 2 項の規定により記録中止 —————

(高橋教育長) 非公開はここまでとする。

(高橋教育長) 以上をもって、本日の議案の審議については終了した。

(高橋教育長) 次に、協議報告事項に移る。附属機関等会議報告について 事務局の説明を求める。

(小熊科学博物館長) 平成 30 年度第 2 回長岡市寺泊水族博物館協議会の報告をする。11 月 12 日に、上越市に新しく出来た上越市立水族博物館うみがたりにて協議会を開催した。長岡市寺泊水族博物館協議会委員 6 名と、事務局 6 名が出席し、上越市立水族博物館のバックヤードを含む施設の見学と、意見交換会を行った。意見交換会では、上越市立水族博物館長から上越市立水族博物館の現状と、今後の管理運営や建設に際して水族館の在り方などの話を伺い、その後質疑応答を行った。質疑応答について、上越市立水族博物館のコンセプトは何か、という質問には、「愛着と誇りを持てる、まちを元気にする水族館」をコンセプトに上越市と協議をおこなったうえで決定し、計画を立て実践している、との回答であった。どのような水族館として運営していくのか、運営計画の目標達成のために工夫していることは何か、という質問には、新水族館ではシロイルカ、マゼランペンギン、イルカショー、大水槽を 4 本柱と位置付け展示をし、常に情報発信に努め、いかにマスコミに目を向けてもらえるかを意識している、との回答であった。協議会のあと委員の方からは、上越市立水族博物館は黒い壁の中に水槽の窓があるなど、とても上品で美術館的な佇まいであった。魚の説明をするラベルには、魚の名前のみの表記であったことや、爬虫類や両生類などの展示がなかったことから、全体的にさらっとした淡泊な印象をうけた。昔ながらの寺泊水族博物館の良さを改めて感じる事ができた、という感想があった。

(竹内スポーツ振興課長) 平成 30 年度第 1 回長岡市スポーツ推進審議会の報告をする。11 月 13 日に、今年度第 1 回目の審議会を開催し、長岡市スポーツ推進審議会委員 14 名と、オブザーバー 3 名、事務局 8 名が出席した。会議の内容は、平成 30 年度オーストラリアホストタウン事業報告と、平成 30 年度長岡市スポーツ推進計画（スポーツ振興課所管事業）報告、長岡市スポーツ推進条例についての 3 つであった。まず、1 つ目のオーストラリアホストタウン事業報告について、オーストラリア競泳チーム「ドルフィンズ」パンパシフィック水泳選手権事前キャンプと、同じく競泳チーム「ドルフィンズ」2018 ジャパンパラ水泳競技大会事前キャンプなどを実施した。競泳チームの D P プールでの練習初日には、のべ 600 人ほどの小

学生が競泳チームを出迎え歓迎し、選手と交流を図ることができた。公開練習では、300人の市民が観覧し、クリニックでは地元ジュニア選手300人がトップアスリートやコーチから直接指導を受けた。また、オーストラリアパラ競泳チームについても、長岡市内パラ水泳関係者と交流を図りながらキャンプを行うことができた。次に、2つ目の長岡市スポーツ推進計画の報告について、スポーツ幼年団育成事業では、放課後の小学校体育館で活動するスポーツ教室・クラブに、4月12日から9月30日まで合計247回スポーツ指導員を派遣した。子ども運動能力向上事業では、小中学生を指導するスポーツ少年団指導員の資質向上のために、著名な講師を招き基礎指導者講習会などを行った。障害者スポーツ活動推進事業では、障害のある人のスポーツへの興味・関心と競技力を高めるため、長岡市立高等総合支援学校などに専門指導者を派遣した。指定種目強化事業では、強化事業の推進体制等が整備されている競技団体を指定して、将来のトップアスリートの育成・強化と競技団体の選手育成システムの充実を図るため、指定種目ごとに育成強化委員会を開催し、強化事業対象選手である1,110名を対象として、定期的な練習会や県内外での合宿、指導者や選手への研修会を開催した。最後に、3つ目の長岡市スポーツ推進条例について、スポーツによるまちづくりの実現を目指して10月8日に条例が施行された。施行を記念し、10月8日にみしま体育館でセレモニーが開催され、三島地域のスポーツ少年団の代表が、「スポーツの力を活かし、長岡を元気にします。」と宣言すると、参加した約600人の市民から大きな拍手が送られた。審議会後に委員からは、子どものスポーツ参加において、二極化している現状があるので、気軽にスポーツ体験ができるイベント等を増やしてほしい、という意見や、中学校の部活動について、指導者や活動日数が減少し保護者が中心となってやらなければならない現状がある。今後、活動が衰退していく中で、部活に一所懸命に励む子ども達の練習環境を良くしていかなければならない、などの意見が出た。

(高橋教育長) 質疑・意見はないか。

(鷲尾委員) 部活動の指導者や活動日数が減少している、とあったが、実際にあった事例として、学校では休日と設定しているにも関わらず、保護者が会場を借用して練習するなど、自発的に実質部活のような活動をしており、それに参加するのは義務なのか、と議論になったことがある。このように、熱心な保護者が動いて活動

している実態がほかにもあるのか。

(竹内スポーツ振興課長) 支所地域のスポーツ協会の委員の方からは、一部ではそのような話も聞くことがあり、学校から地域にかけられる期待が大きくなるのではないか、という意見もあった。

(鷲尾委員) このような実態があるからこそ地域で取り組まなければならないという問題提起としては重要なことだと思うが、こういう状態が増えていることが問題だと感じるがどうか。

(高橋教育長) 部活動で行うスポーツは、学校教育の義務教育課程ではない。一生楽しめるスポーツをするという位置付けをする人、地域スポーツとして上を目指す人など、様々なチャンネルがあり、それで良いと考える。現状の部活は、以前に比べ実施日が減少している。それが物足りなくなった生徒は、部活をする日数を増やすというよりは、違うチャンネルへ移行するという選択肢もある。様々な環境や様々な子ども、様々な保護者、みんな考えが違うところをひとつの型にはめようとすると、鷲尾委員が発言したとおりに上手くいかない、という実態がある。そこを学校や部活の中で解決していくというよりは、もう少し広い活動・地域・人たちのなかで解決していかななくてはならない、と考える。

(金澤教育部長) この点については、部活動の在り方についてガイドラインが制定されるなど、全国で問題となっている。部活は部活の中で行い、そこから外れた場合の受け皿をどのように作っていくのが、今後の大きな課題であると考えている。十分な活動ができるような場を提供できるように、スポーツ協会や教育委員会、地域の方たちの協力などで、きちんと整備していかななくてはならない。様々な人たちと関わりながら、その提供をどのようにするのも大きな課題であると考えている。

(高橋教育長) 部活動の在り方については、スポーツの種目によって随分と状況は違ってくると思う。将来オリンピックなどを目指す子どもは、学校での部活動に属しながらも練習のメインはスクールの枠を使うなど、形がどんどん変化している。学校の部活動の範囲内で、子どもたちが成長していくのか、あるいは競技としての力をつけていくのかは決して時間数だけの問題ではなく、良い仲間に出会えるかどうかなど、部活の役割はそれぞれである。今年は、部活のガイドラインができて初めての年で、部活動指導員という制度もどのように動いていくのかも含めて、状況

を見極めながら検討していきたいと思う。

(金澤教育部長) 人や施設などの土台をしっかりと掘り起こして整備することが大事であると考え。スポーツに関わって子どもを育てたい、という熱意を持って人を掘り起こし、その方たちと繋ぐ柔らかな組織的なものができると、解決に向けて進んでいくというイメージを持っている。

(鷲尾委員) 中島小学校と表町小学校のスポーツ少年団野球の団員数がそれぞれ減少し、来年度から合同の野球チームとなる。スポーツ協会や教育委員会において、各地域のスポーツ少年団の人数は把握しているのか。また、合併に至る背景として、ボランティアで監督やコーチなどをしてきていた野球経験者の保護者が減った点も挙げられると思うが、中学校の部活指導だけではなく、小学校のスポーツ少年団への指導員の斡旋や配置はどのようになっているのか。

(竹内スポーツ振興課長) スポーツ協会を通じて、スポーツ少年団の人数の把握はしている。その人数はだんだんと減少しており、今後も合併するところは増えていくと思う。団体スポーツは子どもの取り合いとなっており、種目の統合も考えなくてはならないと思う。指導者の斡旋や配置については、スポーツ少年団は自主的な運営が原則であるが、スポーツ協会に相談があった場合には競技団体から指導者を仲介することは既に行っている。

(高橋教育長) 他に質疑・意見はないか。

(青柳委員) 先日、いきいきコミュニティ推進協議会において、高齢者が地域のスポーツ大会や競技大会などに参加したいと思っても、ソフトボールや野球、バレーボールなどはハードすぎて参加することができないが、ニュースポーツであれば小・中学生と混じって競えるのではないかと、という意見が複数出ていた。「する」スポーツの推進が、青年・成人期と高齢期に分かれており、高齢者スポーツ大会の参加人数が年々減少している。老人会も減少し、ない地域もあるため、幅広い年齢層で楽しめるものを企画してほしいという意見も出されていた。また、聾学校に指導者を派遣するなどパラスポーツの推進についても取り組みをしているようであるが、デフリンピックについても考えてほしい。

(竹内スポーツ振興課長) パラスポーツについては、スポーツ協会や福祉課など、様々なところと連携しなければならない。様々な事業を考えているなかで、検討し

ていきたい。

(高橋教育長) 他に質疑・意見はないか。

(金澤教育部長) 報告する事項がある。

(遠藤教育施設課長) 西中学校の大規模改造工事を進めているが、アスベストが教室と階段の天井・壁に含まれていることが調査でわかり、対応を行っている。西中学校の1階にある美術室とその準備室、一部の階段の天井からアスベストが発見された。アスベストが10年前に社会問題となった時に調査は入っていたが、今回発見されたところは、他の同じ素材のところにアスベストが含まれていなかったため、含まれていないという解釈であった。しかし、今回改修工事を始めるにあたり、工事開始前に調査を行ったところ、アスベストが含まれていることがわかった。ただちに、飛散しているか空気の濃度を測定したところ、飛散はしていないと確認できたが、ビニールシートやボードで養生をし、飛散の防御をした。

(高橋教育長) 他にアスベストが含まれている施設はないか。

(遠藤教育施設課長) 昔の建材や壁の吹付材など、10年前に調査をしたとはいえ、まだ目に触れていないところをくまなく探すと、出てくるところは他にもあると考える。今回のように大規模改造工事の際に発見されることもあると思うが、その際は適正な対応と措置を取りたいと考える。

(高橋教育長) アスベストが発見されることはあるかもしれないが、それが飛散するような状況は、絶対にあってはならない。その点を肝に銘じてほしい。

(高橋教育長) 以上で、協議報告事項を終える。

(高橋教育長) 次に、催し案内等について補足説明のある者は挙手願う。

(小池学校教育課長) 1月19日と20日にアオーレ長岡において、プログラミング基礎講座を開催する。市内小学校で実施しているロボホン出前授業の内容を中心にしながら、少しアレンジして行う。両日午前午後と2回で計4回の開催で定員が各30名であるが、申込数は定員の4～5倍となっており、児童と保護者の関心の高さを示していると考え。応募の状況をみながら来年度の事業計画を考えていきたい。

(山田中央図書館長) 1月6日に栃尾美術館において、絵付けワークショップオリジナルこけしをつくろうを開催する。12月1日から1月27日まで開催している長

岡の子ども作品展の期間中に例年開催する子ども向けのワークショップである。

(大矢子ども家庭課長) 子育ての駅 12 月のお知らせを発行した。子育ての駅の主要 4 駅の講座やイベント情報などを掲載している。12 月 19 日にぐんぐんにて開催する、ミニ講座+相談コーナー「うちの子って元気すぎ!?!」について紹介する。この講座は、子ども子育て会議の療育相談体制検討ワーキング部会の中で委員から出た、発達の不安について気軽に相談できる場があった方が良く、という提案をもとに具体化したものである。さいわいプラザ 6 階の子ども家庭センターでも常日頃相談を受け付けているが、この度は、子ども家庭センターの職員が子育ての駅に出向き、出前の相談会を行う。今回が初開催である。

(高橋教育長) 他に報告事項はないか。

(斎藤青少年育成課長) 1 件情報提供がある。今年度、文部科学大臣表彰と日本 P T A 会長表彰を長岡市小中学校 P T A 連合会関係者が多数受賞し、11 月 21 日に東京で開催された日本 P T A の 70 周年創立記念式典に合わせて表彰があった。団体では、長岡市立阪之上小学校 P T A が長年の P T A 活動について日本 P T A 会長表彰を受賞した。個人では、8 月に開催された日本 P T A 新潟大会の開催運営にあたった関係者が受賞した。

(高橋教育長) 他に報告事項はないか。

(高橋教育長) 以上で本日の定例会を閉会する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会教育長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員